

令和 7 年 8 月 2 9 日	病 害 虫 発 生 予 報 9 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	------------------------	-----------

農薬の誤飲、盗難に注意！適切な農薬の保管管理に努めましょう

～令和 7 年度茨城県農薬危害防止運動期間（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
サツマイモ：ナカジロシタバ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
果樹共通：果樹カメムシ類 （チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）・・・・・・・・	1
抑制トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）・・・・・・・・	2
○促成トマトは育苗期からのタバココナジラミの防除が重要です。・・・・・・・・	2
秋冬ネギ：ネギアザミウマ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
共通害虫：シロイチモジヨトウ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
共通害虫：オオタバコガ、ハスモンヨトウ・・・・・・・・	4
○水稻収穫後の秋耕の徹底について・・・・・・・・	5
○抑制メロン栽培終了後の管理について・・・・・・・・	5
【その他の病虫害】	
大豆、ナシ、ブドウ、夏秋ナス・・・・・・・・	6
○サツマイモ基腐病の防除対策（収穫期～貯蔵期）・・・・・・・・	7
II. 今月の気象予報	8
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/) で確認することができます。	
詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/ ※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害つる先率（本年値 57.6%、平年値 38.6%）は平年並～やや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 80%）は平年並である。
- ② 8月下旬現在、100 葉あたりの寄生虫数（本年値 4.2 頭、平年値 2.8 頭）は平年よりやや多く、発生地点率（本年値 60%、平年値 44%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率（本年値 0%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 0%、平年値 20%）ともに平年より低い。
- ② 直近 1 か月間（7 月 21 日～8 月 20 日）のかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯への誘殺数（本年値 545 頭、平年値 742 頭）は平年並である。
- ③ 直近 1 か月間（7 月 21 日～8 月 20 日）の笠間市の果樹園内に設置した予察灯への誘殺数（本年値 4,601 頭、平年値 8,673 頭）は平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生時期や発生量は地域や圃場によって異なるため、定期的に圃場全体を観察する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ③ 今後、果実が肥大するカキやリンゴの圃場では、カメムシ類が飛来するおそれがあるので注意する。

抑制トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
－	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月上旬現在、発病株率（本年値 12.5%、平年値 1.1%）、発生地点率（本年値 100%、平年値 18%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ③ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④ タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ⑦ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。また、野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。
- ⑧ 病原ウイルスを保毒したタバココナジラミのハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、栽培終了時まで防除を徹底する。栽培終了後には、株を誘引したまま根を引き抜き、2週間程度ハウスを密閉し、蒸し込みを行い、タバココナジラミを死滅させる。また、薬剤処理による古株枯死を行うことも効果的である。

促成トマトは育苗期からのタバココナジラミの防除が重要です。

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミが媒介するウイルス病です。発病してからの治療はできないため、タバココナジラミの防除が重要です。

本年は、抑制トマトにおいて黄化葉巻病が平年より多く発生しています。また、前作の促成トマト（令和 6-7 年）でも多くの発生を認めました。そのため、今作の促成トマトにおいても、育苗期から本圃初期のタバココナジラミの防除を徹底し、生育初期のウイルス感染を防ぎましょう。

[防除上注意すべき事項]

- ① 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から本圃初期の定期的な薬剤散布および定植時期の薬剤処理により、タバココナジラミの防除を徹底する。
- ② 定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本圃に持ち込まないよう注意する。
- ③ その他の「防除上注意すべき事項」は、上記の抑制トマトに記載してある事項に準じて行う。

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害度*（本年値 50.6、平年値 38.3）は平年よりやや多い～多く、芯葉の被害株率（本年値 88.0%、平年値 90.4%）は平年並～やや少ない。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

共通害虫

1. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近 1 か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年より多く、笠間市で平年よりやや多い～多い。
- ② 8月下旬現在、秋冬ネギ、大豆の圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、早期発見に努め、防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 令和4年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。

（令和5年2月24日発表 病害虫発生予報3月号 p3-4 防除所レポート参照）

(共通害虫 続き)

2. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、筑西市および笠間市で平年より多く、土浦市、龍ケ崎市および坂東市で平年よりやや多い～多い。
- ② 8月下旬現在、大豆、夏秋ナスの圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、早期発見に努め、防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

3. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、笠間市で平年より多く、鉾田市および筑西市で平年並、龍ケ崎市で平年並～やや少なく、土浦市で平年より少ない。
- ② 8月下旬現在、大豆、秋冬ネギの圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、早期発見に努め、防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

水稻収穫後の秋耕の徹底について

水稻の収穫時期となりました。イネ縞葉枯病及びイネカメムシ対策のため、ひこばえ（再生稲）を放置することなく、収穫後は速やかに耕起し、刈り株をすき込みましょう。

① イネ縞葉枯病対策

イネ縞葉枯病ウイルスを保毒したヒメトビウンカが翌年の感染源となります。ひこばえは、ヒメトビウンカの生息・越冬場所になる他、本病に感染したひこばえは、ヒメトビウンカの保毒虫率上昇の原因となります。

② イネカメムシ対策

ひこばえが出穂すると、イネカメムシが好んで吸汁します。収穫後も栄養を蓄えることで、越冬後の生存率が高まるおそれがあります。

葉の
退緑症状



ひこばえに発生した
「縞葉枯病」



ひこばえを吸汁する
「イネカメムシ」

抑制メロン栽培終了後の管理について

令和7年5月に県内の施設栽培メロン圃場において、アブラムシ類により媒介されると考えられているウイルス病（Cucurbit aphid-borne yellows virus によるメロン病害）を確認しました。抑制栽培においても本病の発生を確認しています。

抑制メロン栽培終了後の施設では、次作の病虫害防除のための管理を適切に行いましょう。

アブラムシ類の他、アザミウマ類、コナジラミ類などの微小害虫は、各種ウイルス病を媒介するので、ハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、株を誘引したまま根を引き抜き、2週間程度ハウスを密閉し、蒸し込みを行います。蒸し込み終了後は、作物残渣をハウス外へ持ち出して適切に処分してください。

（令和7年6月26日発表 病虫害発生予察特殊報第1号参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	葉焼病	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ナシ	黒星病	発生量：やや少ない	8月下旬現在、発病葉率は平年よりやや低い。多発した圃場では、秋季防除を徹底する。特に、徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。被害果を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
ブドウ	褐斑病	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	さび病	発生量：やや少ない	8月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	晩腐病	発生量：少ない	8月下旬現在、平年より少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため、罹病した果梗の切り残し、結果母枝、巻きひげ等は剪除し、適切に処理する。
夏秋ナス	アブラムシ類	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	チャノホコリダニ		
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在、平年並～やや多い発生である。

サツマイモ基腐病の防除対策（収穫期～貯蔵期）

1. 収穫の準備

- ・使用するコンテナ等は、洗浄して土を完全に落とす。
- ・収穫前に必ず圃場をよく観察し、①生育不良、②株元の黒変を伴う葉の変色、③枯死株等の異常がないか確認する。

2. 収穫から貯蔵中の対応

【収穫時の対応】

- ・収穫したイモは、後からどこの圃場で生産されたものか追跡できるよう、圃場名を記録しておく。また、収穫したイモは圃場ごとに管理する。
- ・なりつるの黒変、イモのなり首側からの変色や腐敗がないか、イモから芽が出ていないか（萌芽）等に注意する。
- ・他の圃場で作業する前には、農機具や長靴についた土は良く落とし、水できれいに洗浄する。
※コンテナや農機具、長靴等の洗浄は、圃場の近くでは行わない。

【収穫時に発病が疑われる株を見つけた場合】

- ・収穫時に疑わしい症状を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センターまで連絡する。
- ・普及センターが確認するまで、株の抜き取りは行わず、圃場に入らないこと。

【貯蔵中の対応】

- ・貯蔵中のイモは月に1回程度、異常がないか確認する。
- ・貯蔵中に疑わしい症状のイモを見つけた場合、そのイモを貯蔵しているコンテナを隔離する。
- ・貯蔵中、疑わしい症状を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センターまで連絡する。

3. 次作に向けた準備

- ・収穫終了後の残さ（イモ、葉や茎の残がい）はできるだけ持ち出し、適切に処分する。
- ・収穫後速やかに、圃場を丁寧に耕うんし、残された残さを細かく粉砕する。
- ・圃場に停滞水が生じないように、排水対策（収穫後の耕盤破碎等）を行う。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様を守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月30日から9月29日)

気象庁 (8月28日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	10	10	80
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 8月30日(土曜日)から9月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 9月6日(土曜日)から9月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<3週目から4週目の予報>9月13日(土曜日)から9月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。